

不登校を考える

～心の時代の福音～

2023/3/26

不登校とは

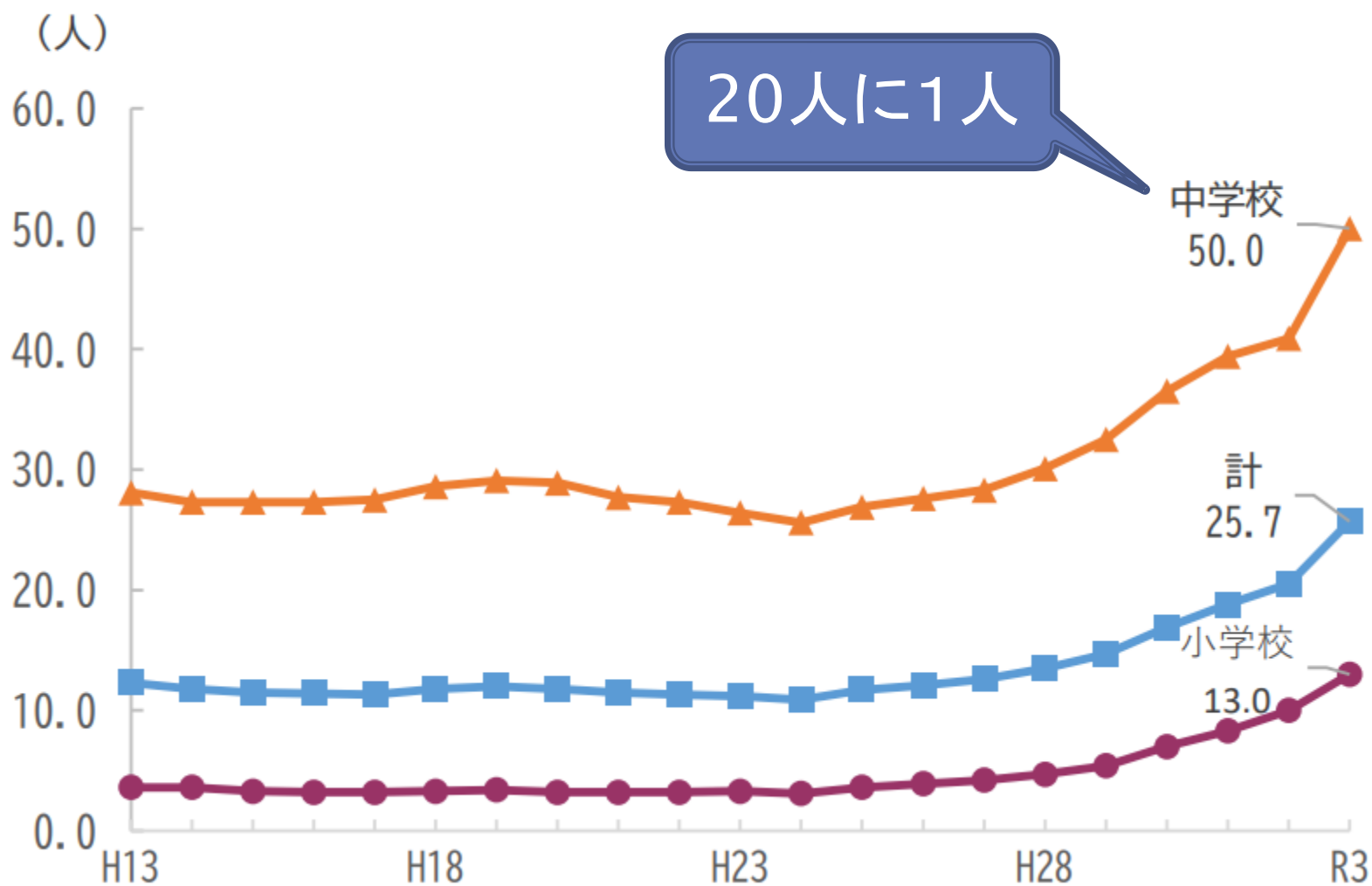
▶ 定義

- 「年間30日以上欠席した児童生徒のうち、欠席理由が何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により 登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者。ただし、病気や経済的な理由による者を除く。」
(文部科学省)

▶ 最初に申し上げたいこと

- 「不登校」は、我慢して行かない子どもの問題でも、無理してでも行かせない親の問題でも、指導が不十分な先生の問題でもありません。**この国の子育て全体の問題です！**

不登校児童生徒数の推移（1,000人当たり不登校児童生徒数）



定義に当てはまらない生徒が2～3倍はいる

不登校の(原因)タイプ

学校生活に起因するタイプ

- ・ 人間関係のトラブルが原因で登校できなくなる **イジメ**→

遊び・非行タイプ

- ・ スマホやオンラインゲームにはまって昼夜逆転

無気力タイプ

- ・ 昔は多かった「スチューデント・アパシー」

勉強に躓くタイプ

- ・ 極端に不得意な教科があるため、学習に対する抵抗感を強く持っている

情緒不安タイプ

- ・ コロナで登校できなくなった児童・生徒に多い

意図的拒否タイプ

- ・ 学校の意義を感じない。登校しないことへの罪悪感が少ない

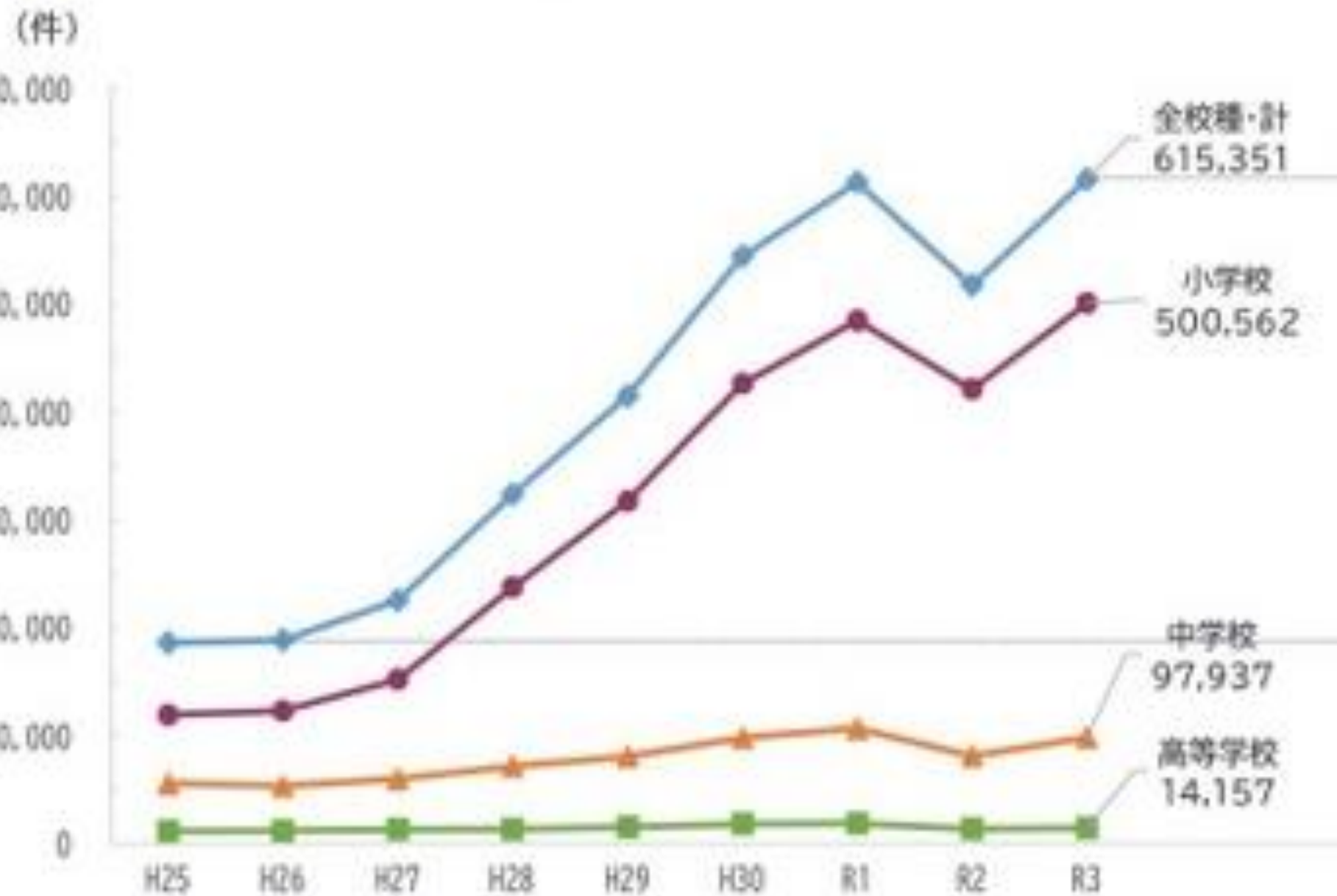
発達障害タイプ

- ・ 発達障害のせいで集団生活の適応が難しい

複合タイプ

- ・ 様々な要素がからみあっているタイプ。おそらく一番多い

いじめの認知件数の推移



学校に行けなくなったら

- 本人の気持ちをしっかり聞く
 - 親子で話ができるチャンス
 - 親に話せないならSCやプロのカウンセラーに
 - 友だちを介して聞き出すことも
- 注意すべきこと
 - あわてない: **学校に行かなくて大丈夫！**
 - 放り出さない: 「勝手にしろ！」は禁句
 - きめつけない: 本音は中々出てこない
- 一番避けたいこと
 - 誰ともコミュニケーションを取らない＞ひきこもり
 - 心の病気＜専門家に確認してもらう

一番大切なこと

- 学校に行けることがゴールではない

- せっかく躓いたことを大切に
- 成長のチャンスととらえる

- 親子の信頼関係を保つ

- 一緒に過ごす
- 共通の言葉(趣味)を持つ

- クリスチャンの場合

- 過激な宗教的手法に頼らない＞傷つく
- 信仰的解決について一緒に考える(一方的に解決策を与えない)

行けない／行きたくない学校

- そもそも「教育」とは？

- “Education”の語源は”Educe”すなわち「引き出す」こと
- 子どもたちのなかに隠れている能力を引き出してあげる

- 紆余曲折する文科省

- 詰め込み＞ゆとり＞脱ゆとり＞？

- 誰のための「教育」か？

- 「**教育の方が子どもに合わせる**」(フィンランド)
- 日本は子どもを教育(学校)に合わせようとする
＞だから行けない子どもが出てくる

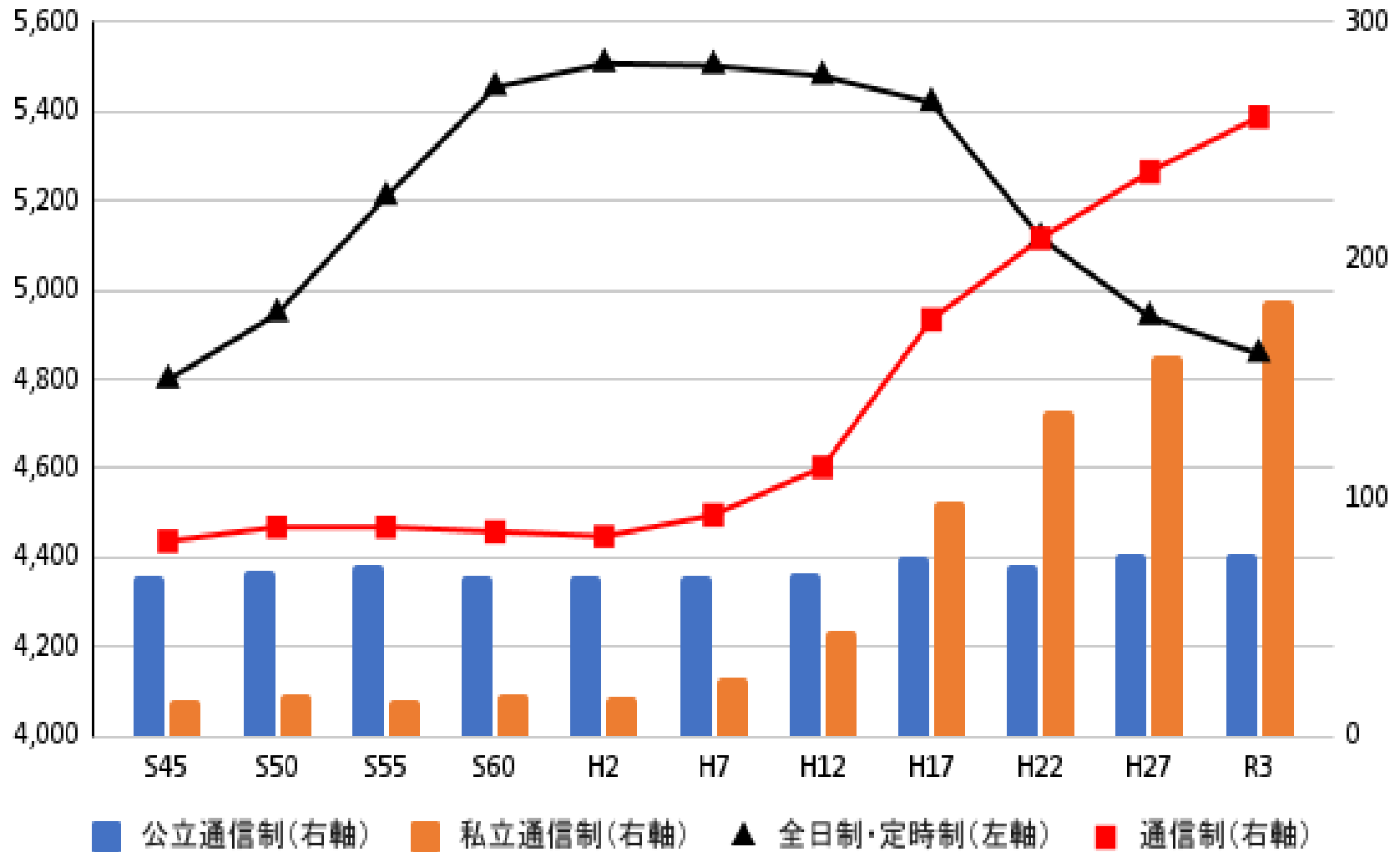
- 一番大変なのは先生たち

- 親のクレーム・膨大な書類・厳しい管理

- 多様化する高等学校

- 通信制高校の増加→

通信制高校の学校数



フリースクールの経験から

- 不登校児童生徒のためのフリースクール「カリス」をやってみました
 - 1997～2000年までの3年間
 - のべ20名程度の子どもたちを預かりました
- 傷ついていた(自信をなくしていた)親子
 - 学校に行けない自分を責めていた
 - 「育て方を間違ったのか？」と悩む親たち
- 『大切にされている(愛されている)』と感じられること
 - つまずいたときに一緒に歩いてくれる人の大切さ

一緒に歩かれるイエス様

- エマオの途上の出来事(ルカ24章)

- エルサレムから逃げ出した弟子

- 一緒に歩かれたイエス様

- 「話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。」24:15

- 質問されたイエス様

- 「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」17

- 無理にエルサレムに連れて帰ろうとはなさらなかった

子どもから学ぶべき

「はっきり言っておく。子供のように
神の国を受け入れる人でなければ、
決してそこに入ることはできない。」
そして、子供たちを抱き上げ、手を
置いて祝福された。

マルコ福音書10章15～16節